



令和元年 12月 10日
独立行政法人国立科学博物館

報道関係各位

国際周期表年記念企画展「周期表の歴史と日本の元素研究」 開催のお知らせ

国立科学博物館（館長：林 良博）は、2019（令和元）年12月17日（火）から2020（令和2）年1月19日（日）までの期間、下記のとおり、国際周期表年記念企画展「周期表の歴史と日本の元素研究」を開催いたします。

近年、日本で発見された113番元素が国際純正・応用化学連合および国際純粋・応用物理学連合から正式に認定を受け、「ニホニウム」と命名され、注目を集めました。そして本年、2019年は、ロシアのメンデレーエフが周期律を発表してから150年にあたることから、国連によって「国際周期表年」と定められ、世界各地で周期表に関連する催しが行われています。国立科学博物館は、この国際周期表年を記念して、自然科学の研究史上最も重要な発見の一つといわれる周期表について新たな興味と関心をもっていただけるよう、周期表の歴史と日本における元素研究を紹介する企画展を開催いたします。

記

【会場】 国立科学博物館地球館 1階オープンスペース（東京都台東区上野公園 7-20）

【開催期間】 2019（令和元）年12月17日（火）～2020（令和2）年1月19日（日）

【入館料】 常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：630円（団体510円 ※団体は20名以上）、高校生以下および65歳以上無料）

【休館日】 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）、12月28日（土）～1月1日（水・祝）

【主催】 国立科学博物館

【協力】 化学切手同好会、公益社団法人日本化学会、国立研究開発法人理化学研究所、
国立大学法人東北大学、国立大学法人山形大学、東京エレクトロン株式会社

【展示概要】 別添参照

【問合せ先】 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：松澤

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9887、FAX：03-5814-9898

E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

展示監修者

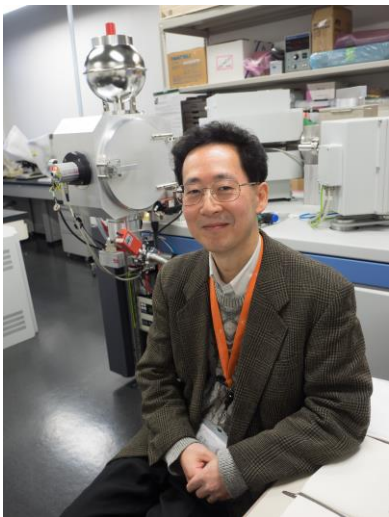


国立科学博物館 理工学研究部長

若林 文高 (わかばやし ふみたか)

専門は触媒化学、物理化学。

特に、ゼオライト触媒に関する酸性質の研究、および固体表面上での反応機構の研究。また、分光学や触媒に関する化学教育教材の開発も行っています。



国立科学博物館 理工学研究部 理化学グループ長

米田 成一 (よねだ しげかず)

専門は宇宙化学、隕石学。

隕石中の微量元素存在度および同位体組成に基づく原始太陽系の形成過程・環境の研究を行っています。日本の隕石関係資料も調査研究しています。